



# かけはし 氷見

| 広 | 報 | 誌 |

KAKEHASHI

HIMI

患者さんと病院と  
地域をつなぐ広報誌



## 病院長 新年ごあいさつ



新春朝日(唐島)

### CONTENTS ● もくじ

<b>TOPICS</b> 外来患者さんの満足度調査結果	<b>P.02</b>
河上先生の診察室から	<b>P.03</b>
診療コラム	<b>P.04</b>
地域医療連携部の紹介	<b>P.05</b>
病院★ニュース	<b>P.06</b>
病院からのお知らせ掲示板	<b>P.07</b>
まちかど情報	<b>P.07</b>

<b>病 院 の 理 念</b>	私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として 次のような病院を目指します。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。</li> <li>● 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。</li> <li>● 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。</li> <li>● 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。</li> </ul>

# ご挨拶 新年の 病院長



病院長  
高島 茂樹



新年、おめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えのことと存じます。

正月は比較的穏やかな天気の中で新年を迎えられたのではないかと思います。1年の計は元旦にあり」ということで、皆さんにはそれぞれ今年1年の計画や目標を定められたことと思いますが、氷見市民病院は金沢医科大学が指定管理者になって今年で6年目を迎えます。病院の管理運営を担当するようになって、紆余曲折の中で無我夢中で駆け抜けた5年間という思いですが、5年間を一つの節目として、今年は、これからの新たな病院運営と診療機能の向上に踏み出す1年にしたいと考えております。

昨年の医療を取り巻く社会状況を振り返りますと、急速な超高齢化社会への対応と増大する医療・福祉経費への対応から「社会保障・税一体改革」が制定され、医療・福祉改革の検討と消費税が2014年には8%へ、そして2015年には10%へ増税されることと決定されました。今後の70歳以上の医療費2割負担と相まって医療・福祉を取り巻く環境は今後、大きく変化していくものと思われれます。

本院におきましては、昨年は新病院のオープンから1周年ということで、昨年の8月に1周年記念事業として小

中学生とその父兄を対象とした「夏休み親子ふれあい医療フェスティバル」を開催いたしました。親子30組100名という多くの皆さんに参加していただきましたが、非常に評判が良く、今年も開催してほしいとの要望が多く寄せられております。また、歌手・女優の「今陽子」氏をお招きして記念講演会を行っておりますが、約270人の参加をいただき、地域の皆様とともに盛況に開催できました。また、10月には金沢医科大学の創立40周年記念式典が金沢市内で行われ、その記念行事の一環として氷見市民病院の見学も行われ多数の皆様を迎えています。また、金沢医科大学が氷見市民病院の病院事業指定管理者に決定する経緯からこれまでの5年間の軌跡を、「金沢医科大学氷見市民病院の挑戦(副題:地域医療が元気になった)」のタイトルで記録本として出版し、全国自治体病院の「再生モデル」として全国に紹介しておりますのでご覧いただければと思います。

本院のこれからの医療は、一昨年に完成した新病院の診療機能を基盤として、地域に根ざした地域医療の中核病院として、地域の皆さんに信頼され地域医療の向上に貢献できる医療体制を作り上げて行きたいと考えています。そのための目指す医療方針は、これまでも何回かご紹介をしていますが、

予防医学、治療医学、早期社会復帰と切れ目のない医療を提供していくことと考えております。まず予防医学としては、生活習慣病や感染症の予防対策を本院の健康管理センターを中心に進めて、病気の予防と早期発見及び早期治療に結び付けることに努力するとともに、治療医学に関しては、医療のレベルアップを図り、必要に応じて高度な医療機器を揃えて患者さんが安心して医療が受けられるような医療体制を築きたいと考えています。そして、急性期の医療が終われば、できるだけ早い時期にリハビリテーションを行い、社会復帰を図るといった一連の医療システムを構築したいと考えています。この予防医学から治療医学そしてリハビリを経て社会復帰までの切れ目のない医療体制というものを地域の医療・福祉機関との相互連携の中で構築したいと考えております。

今後本院の理念であります「医療人としての研鑽に励み、患者中心の医療を実践すること」を忘れず、職員一同努力を重ねて地域の中核病院としての役割を担っていく所存です。皆さまのより一層のご支援ご協力をお願いいたします。

皆さんの今年1年のご健康とご多幸をお祈りして新年のご挨拶といたします。

# 外来患者さんの満足度調査結果

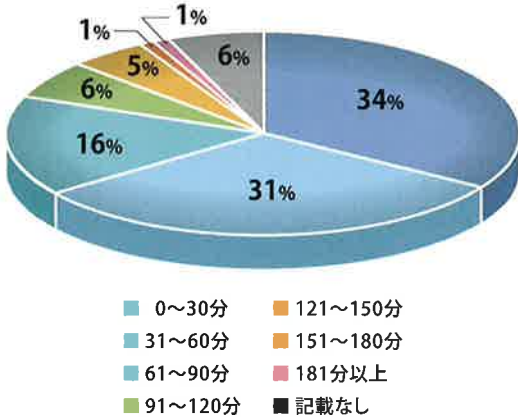
平成24年度外来診療満足度調査結果をお知らせします

昨年の新病院稼働から1年が経過しましたが、今回外来診療における患者さんの「当院受診のきっかけ」や「受診時の対応」などについて患者さんの満足度の度合いや意見を直接アンケート形式でお伺いし、今後の外来診療の機能向上の改善資料とすることを目的として、平成24年9月19日・20日の2日間のわたり外来診療満足度調査を実施しました。

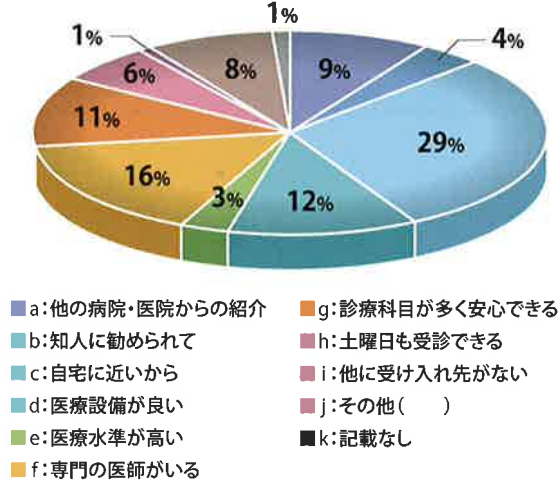
期間中のアンケート配布数は190枚、患者さんからの回収数は126枚（回収率66.3%）でした。調査結果から「診療予約時間がある場合でも待ち時間が長い」「新病院になってから診察室の設計上もあり、看護師への相談がしづらくなった」等の回答を頂きました。また、職員の接遇対応では、直接患者さんに対応する医師・看護師・受付等は全体的に高い評価を頂きましたが、薬剤・放射線・検査・リハビリ部門では今回のアンケートで直接関係しない患者さんが多く「無回答」が多い結果となりました。

今回の満足度調査結果を踏まえて、診療システム等の改善対策を検討しながら「より良い安全で快適な診療を目指して、病院的診療サービス向上に努めていきたいと考えています。」

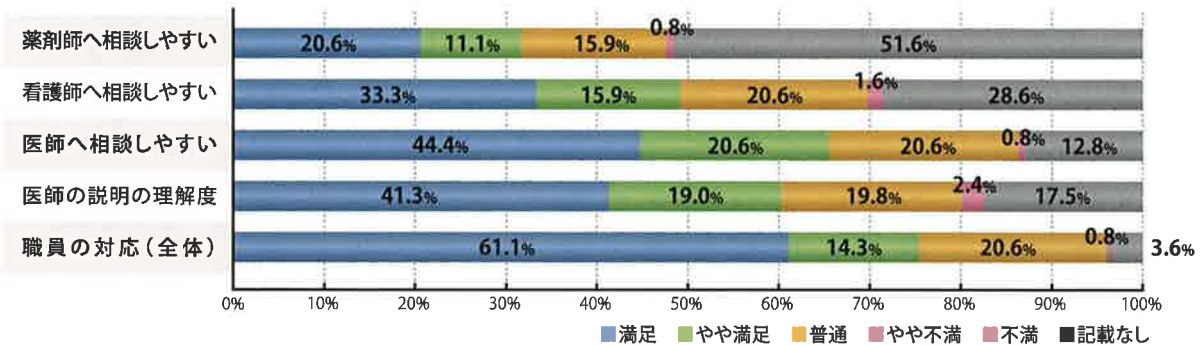
■ 診察までの待ち時間



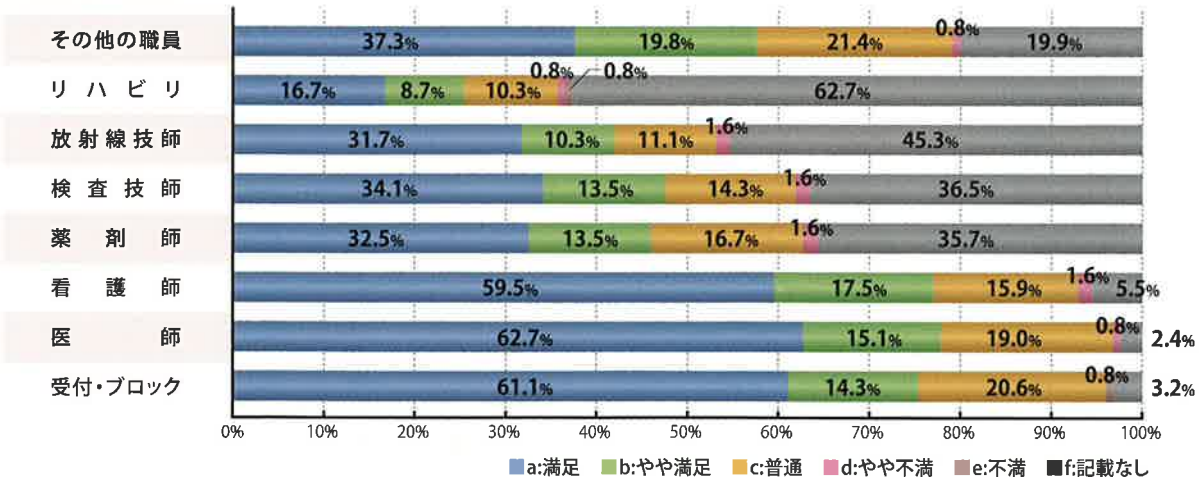
■ 当院受診のきっかけ



■ 各設問に対する満足度



■ 職員の対応



河上先生の  
診察室から



外来での診察風景

眼科 科長・講師

河上 裕

YUTAKA  
KAWAKAMI

**目** から入る情報は、脳に入る情報の80%以上

とも言われており、生活をjする上でとても重要なものです。金沢医科大学氷見市民病院眼科ではその「大切な目」を守っていくことを目標に日々頑張っております。

目が悪くなる病気のいくつかは、年齢を重ねることで進行するが、治すことが可能な病気があります。その代表が「白内障」です。白内障は、目の中の水晶体が、濁ってきて見えにくくなったり、まぶしさを感じたりする病気です。治療はごく初期の場合やなかなか手術の決心がつかないしばらくの間は、目薬で様子を見ますが、根治的な治療は手術になります。当院では、平成24年11月より最新型の白内障手術機械を導入し、片

目1泊2日の入院にて白内障手術を行っています。手術は局所麻酔で行い手術時間は10分程度です。

また、見えるには涙は重要な役割をしています。多すぎても少なすぎても問題があります。多すぎる病気は、12月の「広報ひみ」にも紹介しました「鼻涙管閉塞」「総涙小管閉塞」等があります。これらの疾患に対して私自身、金沢医科大学を中心に多くの治療に携わってきました。特に、北陸では数人しかいない、涙道内視鏡を用いた涙道手術を得意としており、今後、当院でも積極的に加療を行うことを検討しております。

さらに、目の奥の硝子体手術の機械を導入し、硝子体手術も積極的に行う予定であります。

川上 裕 ★ 経歴

- ◎平成9年 金沢医科大学 卒業
- ◎平成13年 金沢医科大学大学院医学研究科 卒業
- ◎平成24年 金沢医科大学氷見市民病院 講師 診療科長着任

◆所属学会

日本眼科学会、日本白内障学会、日本角膜学会、日本涙道・涙液学会



「目」に関してのご質問などがありましたらお気軽に眼科までご連絡ください。今年もよろしくお願いたします。

当院では平成24年9月に完全予約制の禁煙外来を開設しました。これまで「禁煙を始めたいけど、どこに相談すればいいのかわからない」という喫煙者やその家族の声が多く、呼吸器内科の予約専門外来（金曜午後3〜5時）として行うことになりました。

当院の禁煙外来は、左記の項目に**すべて当てはまる禁煙希望のかた**であれば、でも予約のうえ受診できます。

- 1 <簡単な質問テスト>の結果、ニコチン依存症と判定されている
- 2 1日の喫煙本数 × 喫煙年数 = 200以上である
- 3 ただちに禁煙することを希望し、禁煙治療を受けることを文書で同意する

簡単な質問テスト = ニコチン依存症スクリーニングテスト

- 1. 自分が吸うつもりよりも、ずっと多くタバコを吸ってしまうことがある。
- 2. 禁煙や本数を減らそうとして、できなかったことがある。
- 3. 禁煙や本数を減らそうとしたとき、タバコがほしくてたまらないことがある。
- 4. 禁煙や本数を減らしたとき、次のどれかがある。  
イライラ、神経質、落ち着かない、集中しにくい、ゆううつ、頭痛、眠気、胃のむかつき、脈が遅い、手のふるえ、食欲や体重の増加
- 5. 4の症状を消すために、またタバコを吸い始めることがある。
- 6. 重い病気にかかったときに、タバコはよくないとわかっているのに吸うことがある。
- 7. タバコのために自分の健康問題が起きているとわかっているのに、吸うことがある。
- 8. タバコのために自分に精神問題が起きているとわかっているのに、吸うことがある。  
(喫煙することによって神経質や不安、抑うつ症状が出現している状態)
- 9. 自分はタバコに依存していると感じることがある。
- 10. タバコが吸えないような仕事やつきあいを避けることが何度かある。



このうち当てはまる項目が**5つ以上**で、「**ニコチン依存症**」と判定されます。



呼吸器内科  
講師 井口 晶晴

上記の  にすべて当てはまる場合は診察料や薬剤料は保険診療となりますが、1つでも当てはまらない場合はすべて自費(自己負担)診療となります。具体的な費用や予約など詳しいことは当院医事課(禁煙外来担当)までお問い合わせください。

当院の禁煙外来では、禁煙希望の方の喫煙状況や体質、治療中の病気に応じて適切な禁煙補助薬(内服薬によるものやテープ剤によるもの)を用いた治療を行っています。標準的な治療期間は12週間で合計5回の受診をお願いしています。



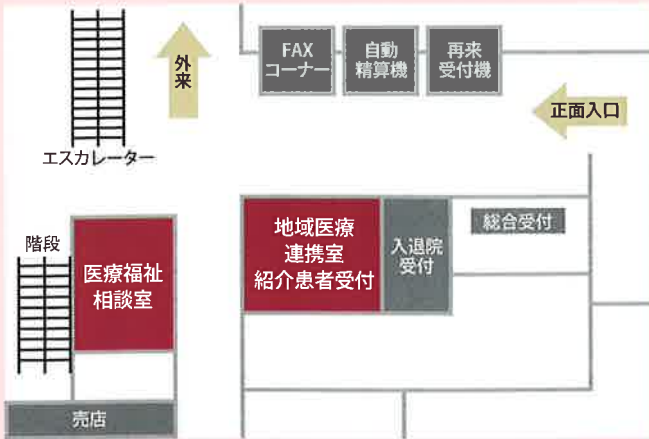
# 地域医療の

# かけはしとして

## 地域医療連携部の紹介

当院の正面玄関エントランスに面して、紹介患者さんの受付窓口があります。また、通路を隔てて向かい側には医療福祉相談室が設置されています。この二つを併せて「地域医療連携部」を構成しています。

「どのようなお仕事ですか?」とよく



聞かれる質問ですが、業務は、大きく分けて次のふたつがあります。

地域の医療・福祉機関からご紹介いただく患者さんの受診や予約調整、紹介状管理などに係る「前方連携」と、患者さんの相談や退院・転院時の支援・連絡調整に係る「後方連携」があります。

### 紹介患者受付

#### 前方連携

では「前方連携」から詳しくご紹介いたします。

地域の医療・福祉機関から持参していただく「紹介状」(診療情報提供書)は、患者さんにとって適切に医療を受けるための大切な書類です(紹介状があると診療がスムーズに進みます)。紹介患者さんが、まず最初に訪れるのが地域医療連携室(紹介患者受付)です。

ここでは、紹介患者さんの受診の受付とご案内を行います。事前に紹介元医療機関からご連絡いただければ、

患者さんをお待たせせず、スムーズな対応が可能です。

また、CT、MRI等の検査紹介や完全予約制の診療科の予約も承っております。



### 医療相談・退院支援

#### 後方連携

誰でも入院時には、不安や心配がつきものです。当院のメディカルソーシャルワーカーは、そんな患者さんや家族からの医療的、経済的問題等の相談に応じ、安心して療養生活が過ごせるよう支援します。

また、退院・転院時には、地域の医療・福祉機関と連携し、退院の調整を行います。介護保険や福祉制度、セカンドオピニオン等についてもお気軽にご相談ください。

私たち地域医療連携部スタッフは、患者さんと地域の医療・福祉機関との間をとりもつ、「かけはし」のような存在でありたいと願っています。



医療福祉相談室

地域医療懇談会

例年に比べ一足早い雪が降り積もる中、平成24年12月8日(土)氷見温泉郷うみあかりにて「第5回地域医療懇談会」が開催されました。市内外の14医療機関から15名の先生方及び当院より医師・看護師等32名の参加がありました。

懇談会ではまず始めに、高島病院長より当院の昨年1年間の事業報告、診療収入実績と今後の当院が目指す医療について説明があり、次に当院の医師紹介と題し、呼吸器内科講師井口晶晴医師と眼科講師河上裕医師より診療等の説明が行われました。

続いて、明祥(株)医療情報部 濱雅彦部長を講師にお招きし「地域連携、パス」について講演をして頂きました。

その後の懇親会では、いろいろなご意見や情報交換が活発に行われ、大いに賑わいました。

このような会を通じて、今後ますます病診連携が強化されると共に、当院の目標でもある地域完結型の医療を提供していきたいと考えております。

また、その一端として、「病院機能情報誌」を発行しましたので、ご参考にして頂ければ幸いです。

職員接遇研修会

平成24年11月13日(火)午後5時30分から6階多目的ホールにて職員接遇研修会が開催されました。講師は、ANAライオンング株式会社 塚崎洋子先生で

「患者さんと心を通わす医療接遇」と題して講演していただき、参加者は医師、看護師、医療技術職員、事務職員等184名でした。

講演では、病院を訪れる患者さんは、施設内のスタッフの誰と会うかも第一印象を感じる。初めて出会う瞬間がその後

の影響は多大であり、第一印象の重要性を改めて認識し、患者さんの信頼を短時間で得るためのポイントを演習しました。

第一印象は、ほぼ視覚(表現・動作・身だしなみ)、聴覚(言葉遣い・話し方)から15秒で決まるといふ。そのため、短時間で好印象を与える4つのポイント

- ① グッドスマイルとアイコンタクト
- ② 医療現場に求められる身だしなみ (常に清潔・上品・控えめ)
- ③ 丁寧な印象を与える立ち振る舞い (動作はきびきびと)
- ④ 相手を尊重した言葉遣い(マジックフレーズを加えて)を学んだ。

常に顧客満足を意識し、相手の立場でのことを考え、相手を大切にしたいサービスをする事、ハード

(患者の目的である治療ソフト(人)の重要性、顧客満足は職場環境から



生まれる事を意識し、「相互注意と賞賛」ができる職場風土になるよう病院全体で取り組んでいく必要性を感じた研修会でした。

病院施設計画

【風除室増設工事】

当病院の正面玄関は前面の国道に対して横を向いた場所に設置されています。

これは、道路側が北方向となるため、北風の吹込みを考慮したもので、東側に位置しています。

しかし、昨年の冬を経験して、想定以上に1階ホールへの風の吹込みや廻り込みが多い事がわかり、前室をもう一つ設置することといたしました。

冬期間の病院の出入については少し使い勝手が悪くなるかもしれませんが、ご協力の程よろしく願っています。

【研修棟建設工事】

28・32・37・42・48この数字は何なのか分かりますか。

当病院の平成20年4月からの医師数の変遷です。毎年、充実していく状況が分かり、そして今後も更に医師の充足が図られる事になります。しかし、医師の医局が窮屈になってきました。



増築予定部分(平成25年11月完成予定)

このため、医師の医局の増設と医学生や看護学生など臨床実習生の教育・研修施設の充実整備を目的として建物を増築します。

クリスマスコンサート

平成24年12月22日(土)、20代の看護師で組織しているサークル・りんごステーションメンバーが中心となり、当院1階ホールにてクリスマスコンサートが開催され、約100名の患者さんが参加されました。

ハンドベルで「きよしこの夜」から始まり、クラリネット、重演奏による「聖者の行進」等、木管3重奏による「星に願いを」等、次々に披露し、その音色に患者さんらも大変満足されている様子でした。

その後、看護師らによる「川の流れのよ」に「や」がありとつを合唱し、最後に全員で「シングルベル」真つ赤なお鼻のトナカイさんを合唱して閉幕しました。

日々忙しい業務の中、この日の為に演奏練習していたりんごステーションメンバーに感謝すると共に、多くの患者さんの笑顔が私たち職員へのクリスマスプレゼントでした。



# 病院からのお知らせ掲示板

## ● 夜間の救急外来の受診について

夜間などに救急外来を受診する場合は、必ず健康保険証をご持参ください。また、夜間等の時間外は専門医師も少なく救急診療体制となっており、緊急を要しない場合は日中の専門診療外来を受診されるようお願いいたします。

## ● 病院ボランティアを募集しています

病院では外来診療や入院診療で患者さんのサポートをしていただける方を募集しています。

### 活動内容

#### ■ 外来ボランティア

外来受付案内、誘導、車いすの介助など

◎ 9時～12時までの間

(ご希望に合わせて活動して頂きます)

問合せ先 総務課(内線2022)  
ボランティア担当まで

## ● マスク自動販売機の設置について

当院では、マスクの自動販売機を院内に3台設置しております。場所は、自動精算機横・防災センター前・2Fエスカレーター横です。マスク2枚入100円で販売しておりますので、インフルエンザ等感染予防のためにもご利用ください。



## まちかど情報

### 冬の味覚「ひみ寒ぶり」

氷見の冬の味覚と言えは「ひみ寒ぶり」です。この冬も「ブリ起こし」と呼ばれる雷鳴が、暗く寒い夜に鳴り響くと同時に10kgを超える大きなぶりが水揚げされ漁港が賑わいました。

氷見では年の瀬に娘の嫁ぎ先にお歳暮として、出世魚と言われる「ぶり」を丸ごと1本贈る風習があります。お嬢さんの出世や子供の健やかな成長の願いが込められているそうです。今年もこの願いが詰まった、「ひみ寒ぶり」の大きな青い箱があちらこちらで見ることができました。見ている方も大きな幸せを分けてもらえた気がしました。

また、この「ひみ寒ぶり」の美味しさを堪能してもらおうと市内全域で、1月7日～2月28日まで「ひみぶりフェア」が開催されています。この機会にぜひ一度、氷見の冬の味覚「寒ぶり」をご賞味ください。詳しくは氷見市または氷見市観光協会HPをご覧ください。



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。皆さん、初詣には行かれましたか？ 私も毎年恒例ではありますが、家族で初詣に行ってきました。やはり初詣というのは神聖なものであり、1年の始まりとして決意も新たに、身も心もキュッと引き締まる思いです。

本紙病院ニュースにもありましたように、昨年12月上旬に地域医療懇談会が無事執り行われました。編集委員である私にとっては、この「かけはし」という言葉を改めて考えさせられましたし、責任も感じました。

昨年同様、「かけはし」を胸に職員一同頑張りますので、引き続きご支援よろしくお願ひ致します。また、今年1年皆さんに多くの幸せが訪れることをお祈りいたします。

氷見市民病院 経理管財課 かけはし冬号編集委員 椿原 澄朗

## ◎除雪機を導入しました。

厳しい北陸の冬を迎え、今シーズン新たに小型の除雪機を導入しました。敷地内駐車場や歩道などの細部まで除雪作業を行っています。歩きやすく、安全な環境を提供できるようにしていますが、不十分な場合もありますので転倒等に十分ご注意ください。



## ■広報誌「かけはし 氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけはし」となることを願って命名されました。